

コパチンスカヤが阪大に来る

とき：2008年11月30日（日）午後4時～5時半

ところ：大阪大学豊中キャンパス イ号館 21世紀懐徳堂 多目的スタジオ

入場無料

プログラム

G. エネスク：《幼い日の思い出》より「ミンストレル」

J. S. バッハ：《無伴奏ヴァイオリンパルティータ》第2番より「シャコンヌ」

J・サンチェス=チョン：《クリン》



Photo: Marco Borggreve, Amsterdam

パトリツィア・コパチンスカヤは、すでにウィーン・フィルやマリス・ヤンソンスとも共演している第一線の演奏家ですが、掛け値無しに現在最も注目すべきヴァイオリニストです。ルーマニアの東隣、モルドヴァの生まれ。両親は旧ソ連時代の著名な民族楽器奏者。その血を継ぎ、民族楽器としてのヴァイオリンの妖しさとエネルギーを保ちながら、超モダンな音楽的教養も身に付け、古典も現代音楽も生まれたばかりの瑞々しいパフォーマンスと化してしまう。でも、ヴァイオリンとは本来、こういうものだったのです。どんなジャンルの音楽ファンにとっても、彼女は必見、必聴。ぜひ、この機会にどうぞ。

主催：大阪大学グローバル COE プログラム「コンフリクトの人文科学」研究プロジェクト「音楽の生産・流通・消費におけるコンフリクト」、および文部科学省人文社会科学振興プロジェクト「芸術とコミュニケーションに関する実践的研究（コミュニティ・アート部門）」

お問い合わせ：大阪大学大学院文学研究科 伊東研究室（音楽学）06-6850-5124 itonob [at]

let.osaka-u.ac.jp